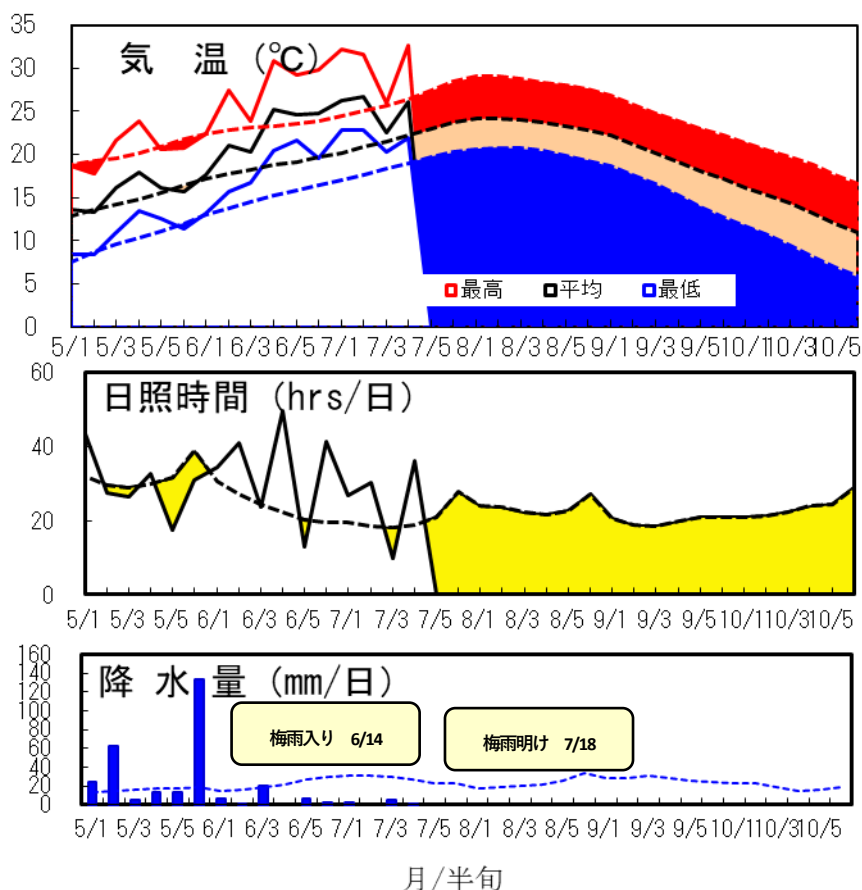


～降水量が少ないため 生育量は平年よりやや少なめ～

～高温の影響で 開花状況は平年並みからやや早め～

1 気象経過



◆7月24日発表 東北地方の1か月予報(7月26日～8月25日までの天候見通し)【気象庁ホームページより】

- ・東北太平洋側では天気は数日の周期で変わるが、平年に比べ晴れの日が多い。期間の前半は、気温がかなり高くなる見込み。
- ・向こう1か月の気温は、高い確率80%、平年並み若しくは低い確率10%。
- ・降水量は、多い若しくは平年並みの確率30%、少ない確率40%。
- ・日照時間は、多い若しくは平年並みの確率40%、少ない確率20%。

気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%)				
気温	東北地方	向こう1か月 07/26～08/25	10	80
		1週目 07/26～08/01	10	80
		2週目 08/02～08/08	10	80
		3～4週目 08/09～08/22	10	60
降水量	東北日本海側	向こう1か月 07/26～08/25	30	30
	東北太平洋側	向こう1か月 07/26～08/25	40	30
日照時間	東北地方	向こう1か月 07/26～08/25	20	40

■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

2 生育状況

◆5月26日播種

- ・出芽日数は平年並みの7日であった。播種前及び数日後に降雨があったことから、播種から出芽まで適度な土壌となり、出芽揃いは良好であった。

◆6月13日播種

- ・出芽日数は平年より1日早い6日であった。播種後に降雨があり適度な土壌水分が得られたことから、出芽揃いは概ね良好であった。

品種名	播種期 (月/日)	出芽期 (月/日)	出芽日数		
			本 年	前年差	平年差
タンレイ	5/26	6/2	7日	同日	0日
ミヤギシロメ	5/26	6/2	7日	同日	0日
ミヤギシロメ	6/13	6/19	6日	1日早	—

注1) 出芽日数は播種翌日から出芽期までの期間

注2) 平年差は過去5か年（R2～R6）の平均値との差

注3) 6/13播種のミヤギシロメはR3からのデータなので平年値無し

- ・「タンレイ」、「ミヤギシロメ」とも主茎長は平年より短く、主茎節数は平年並み、分枝数・総節数は平年よりやや少ない。
- ・6月以降降水量が少ないため、生育量は平年よりやや少なめと思われる。

播種期	品種名	主茎長(cm)			主茎節数（節/本）			分枝数（本/本）			総節数（節/本）		
		本年値	前年差	平年差	本年値	前年差	平年差	本年値	前年差	平年差	本年値	前年差	平年差
5/25	タンレイ	26	2	-2	8.2	0.5	0.0	0.3	-1.0	-0.6	9.5	-2.3	-1.6
播種	ミヤギシロメ	25	-2	-5	8.1	0.5	0.0	0.5	-1.5	-0.5	10.2	-2.4	-1.0

注1) 平年差は過去5か年（R2～R6）の平均値との差

注2) 栽植密度は、条間75cm×株間20cmとした（1株2粒播種）

【宮城県古川農業試験場 令和7年度 大豆作況試験 調査結果より】

- ◆7月24日現在、大豆種子生産ほの巡回調査結果によれば、6月上旬に播種された「タンレイ」、「きぬさやか」、「すずみのり」等で開花が始まっている。このことから、本年は降水量が少ないために生育量は平年よりやや抑えられているが、生育ステージは平年並みからやや早いと推測される。
- ◆6月後半以降、降水量が少ないため、遅蒔き的大豆で発芽不良を起こしているほ場が見られる。

3 今後の管理

1 湿害対策

- ・排水対策の重要な時期は、①播種直後の発芽期、②根粒着生から開花前までの生育前期、③子実が肥大する生育後期である。
- ・生育後期は湿害により未熟粒や障害粒が発生するので、登熟を良好にするためにも排水対策が重要となる。

2 中耕培土

- ・中耕培土の実施によって、培土部分に大豆の不定根が発生し、養水分吸収力のアップ、不定根に着生する根粒菌による窒素固定、倒伏防止、通気性の改善、除草効果等、多くの効果が期待できる。
- ・播種後に散布する除草剤（土壌処理剤）の有効期間は、下図のとおり播種後25日程度と言われている。また、5月下旬に播種をすると、早生品種のタンレイ等は7月下旬には開花が始まることから、開花10日前までに中耕培土を終えることを基本とする。播種の時期によって、中耕培土の作業期間は限られてくるので、下図を参考にして中耕培土の作業計画を立てる。
- ・本年は6月後半以降の降水量が少ないため、2度の中耕・培土を実施できているほ場が多い。
- ◆開花が始まっているほ場では、培土の実施は断根を促し、開花受精に悪影響を及ぼすので、行わない。

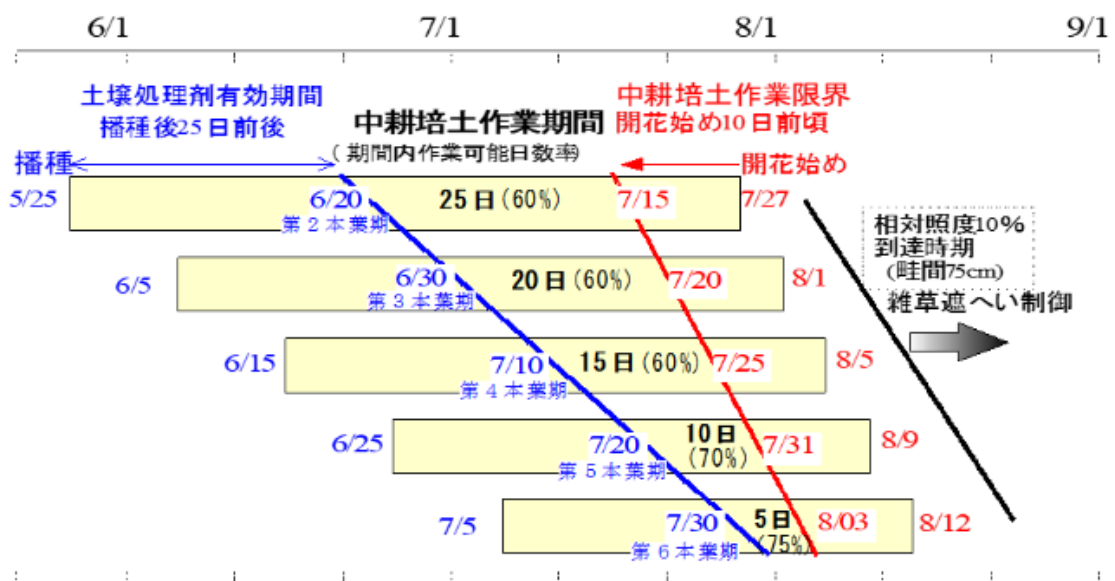


図 中耕培土作業可能期間設定のめやす

◆培土実施の目安は、下記のとおり。

- ・普通播栽培（5月下旬～6月上旬播種）では、1回目は本葉2～3葉期に子葉節がかくれる高さまで、2回目は6～7葉期に初生葉がかくれる高さまで行う。
- ・晩播栽培（6月中旬～7月播種）では、大豆の繁茂量が少ないので、排水と雑草防除を主体に1回程度とし、本葉5～6葉期に子葉節がかくれる程度の高さまで行う。
- ・株元までしっかり土寄せすることで、土中の茎下部から不定根が発生する。

3 雑草防除

- ・「広葉雑草対象」の除草剤として、「大豆バサグラン液剤（ベンタゾン塩液剤）」と「アタックショット乳剤（フルチアセットメチル乳剤）」が普及に移されている。この2剤は、気象条件によって除草効果に変動がみられるので、注意が必要である【詳しくは、全農宮城県本部のホームページより 令和6年度 大豆作情報 第2号（令和6年7月発行）を参照されたい】。

① 大豆バサグラン液剤

- ・散布後24時間以内の日照時間が少ないと、効果が低下する場合がある。すなわち、曇天や降雨日を避け、散布後も日照に恵まれると予想される天候時に散布すると、効果が高まる。

② アタックショット乳剤

- ・散布前後48時間の平均気温が25℃以上だと、効果がやや低下する場合がある。

◆開花が始まっているほ場では、除草剤の散布は行わない。

4 病虫害防除

- ・7月23～24日に、大豆種子生産ほの巡回を行った結果、「タマナギンウババ」や「ウコンノメイガ」の幼虫による食害痕が散見された。高温の影響で、急激に被害が拡大する恐れがあるので、ほ場をよく観察し、食害が目立ってきたら直ちに防除する。
- ・「イチモンジカメムシ」など、大豆に被害を及ぼすカメムシ類の発生も多い傾向にあるので、ほ場をよく観察すること。